



TITLE:

蘇聯第一次五ヶ年計畫と貿易

AUTHOR(S):

松尾, 彰

CITATION:

松尾, 彰. 蘇聯第一次五ヶ年計畫と貿易. 經濟論叢 1937, 44(4): 617-628

ISSUE DATE:

1937-04-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130916>

RIGHT:

京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第四卷 第四號

昭和二十二年四月一日發行

論叢

國民生命史觀の諸問題……………經濟學博士 石川興二
貸借對照表の性質……………經濟學博士 蜷川虎三

時論

臨時租稅增徴と稅制整理……………法學博士 神戸正雄
生産設備擴充資金^{の供}給と赤字公債の消化……………經濟學博士 小島昌太郎

研究

中立貨幣の條件に關する一異說……………經濟學士 中谷實
全體主義的國民經濟學の基礎理論……………經濟學士 白杉庄一郎
「孤立國」に於ける收獲遞減法則……………經濟學士 山岡亮一

說苑

ロイツに於ける再保險の操作……………經濟學士 佐波宣平
最近獨逸に於ける公債政策論……………經濟學士 島恭彦
蘇聯第一次五ヶ年計畫と貿易……………經濟學士 松尾彰

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

としての露國の傳統的地位が、プロレタリア革命によつて直ちに工業國化されるといふことは、非常な努力なくしては實現出來ないのは全く當然である。蘇聯が國民經濟の社會化の根本工作として實行したこの工業化について、如何なる方策を採つたのであつたか。

先づ第一次五ヶ年計畫の當初、政府が主力を注いだのは、從來の工業設備の擴張と改造とであつた。即ち一九二八—二九年において、工業投資額總計において占めるその割合は實に四五・五%にのぼり、これに基本修理の占むる九・三%を加へるならば、五四・八%といふ壓倒的數額を示すのである。勿論改主建從の方針は、計畫年度の進むに従つてその地位を逆轉せしむることとなり、最後の年度たる一九三二年においては、新建設（一九二八—二九年には二七・七%たりしもの）が四六・三%となつたのに反し、擴張と改造は二七・五%基本修理は四%に下つてゐる。而してこれらの投資の結果、一九三二年末において、操業開始の状態にある工業固定資本の新規増加分は百五十三億留とせられ、五ヶ年計畫前の活動固定資本に比すれば、その二

倍以上に該當し特に重工業については三倍に相當するとせられる。⁶⁾

事の新建設に關すると、擴張・改造及び基本修理に關するを問はず、蘇聯が工業化資材を巨額に必要としたことは、右の數字によつて明かであるが、この驚くべき工作の實現は如何にして行はれたのであつたか。

我々は先づ蘇聯の國家豫算を検することによつて、如何に國家の強權に基く工業化の強行が行はれたかを知るのである。⁷⁾

(2) 蘇聯國家豫算配分表 (單位・十億留)

支出方向	五ヶ年分 豫定額	五ヶ年計 畫實行額	計畫遂行 程度實數
國民經濟總支出 その内	二二・四	五〇・二	二二・八(十)
工業及び電化	八・二	二二・〇	一四・九(十)
農業	三・四	八・五	五・一(十)
運輸及び通信	九・二	一〇・四	一・三(十)

この豫算面に表示された巨額の資金を、然らば如何にして調達することを得たか。

第一に、歳入に現はれた諸項目の逐年的増大は、左⁸⁾

5) Summary of the fulfilment of the first five-year plan. p. 42-43.

6) op. cit., p. 48.

7) op. cit., p. 223-224.

8) 滿鐵經濟調査會編、「一九三四年版・ソヴェート聯邦年鑑」、(昭和九年三月)、三三三頁

表によつて窺ふことが出来る。

(3) 蘇聯國家豫算歳入表 (單位・百萬留)

項目	年度	一九二八	一九二九	特設年度	一九三一年	一九三二年
社會化經濟資金		五、五二・二	九、〇四・六	三、四五・三	五、八七・六	三、八七・九
増加%		—	六二・七	—	七五・五	三七・八
國民動員資金		六七・二	一、三三・六	四〇五・六	二、八八・五	四、八九・〇
増加%		—	九九・〇	—	一五・四	七〇・五
その内債		二七・七	六四・二	二〇〇・三	一、五八・八	二、七五・〇
その公債		—	—	—	—	—
その他收入		三三〇・三	七六一・五	二二四・七	一、七四・九	七七八・二
合計		六、六八・四	一一、四一・七	四、〇七三・六	四、四四・〇	三、七、五二・〇

右のうち、社會化經濟資金といふのは、社會化經濟部門において調達せられる歳入額を示し、その構成は取引税・収益及び鐵道純收入等より成る。取引税はそのうち七二・六% (一九三二年度) といふ高率を占めてゐるが、これは製品が生産部門より配給部門に移されるに當つて課徴せられる一種の消費税であつて、社會化經濟の生産増加と國營・組合經營商業及びコルホーズ

蘇聯第一次五ヶ年計畫と貿易

商業の進展に伴ひ、益々増大すべきものである。而して我々はこの取引税を中心とする社會化經濟資金が、右表の如く各々前年に比し、六二%・七六%といふが如き増加率を示したことに注意を向ける以上に、次の國民資金動員といふ項目の増加率に關心を持たねばならぬ。何故ならば、其處では九九%・一一五%といふ増大を示してゐるのみならず、公債のそのうちにおいて占める割合が、三二%・四八%・四九%・五五%・五六%と逐年増加しつつあるからである。而してこの國民資金動員といふのは、諸税及び公債より成り、しかもこの公債は著しく強制的色彩に富んでゐる。今試みに一九三二年一月一日現在の國債總額三、七四九百萬留 (國營貯金部を含む) を、その手持者別に檢するに、勞働者・事務員は二、四五九百萬留 (六〇%) 農民は八七一百萬留 (二三%) を占め、兩者にて總額の八三% といふ驚くべき高率を示してゐるのである。¹⁰⁾

第二に、我々がいま問題とする外國貿易の分野において、如何なる事態が発生してゐるかを見るに、蘇聯

9) 同上、三三五頁
10) 同上、三三七—三八頁

が一九二八年から三二年までの間に、外國より輸入した總額は、實に四十億金留以上¹¹⁾のほり、そのうち工業化のためにするものは、機械・器具・其他の金屬製品・鐵其他の金屬・トラクター・自動車等、凡そ三十億金留に達するのであつて、この莫大なる工業資材の輸入に對しては、勢ひ輸出貿易の強力なる遂行をもつて臨まなければならなかつたのである。

第一次五ヶ年計畫において、輸出入貿易の計畫性が、全く顧みられなかつた譯ではなく、例へば國家計畫委員會では、一九三二・三三年度において二、〇四〇百萬留の輸入と二、六二七百萬留の輸出とを豫想してゐたのであつた。¹²⁾併しながら、資本主義諸國との接觸面の最も大なるこの部面ほど、計畫性が攪亂された場合は稀であつた。それは一言にして盡せば、國內需要の不斷の繼續と輸出伸力との矛盾に満ちた對角線的形相に基因するのである。國內の工業化的建設は、計畫の齟齬を來さしめないために續々として強行せられ従つてそのための資材の輸入は依然として持續せられ

たのにも拘らず、國外的事情は、一九三〇年に端を發した世界恐慌に基く資本主義諸國の異常なる購買力の激減を惹起し、従つて蘇聯生産物に對する需要の著しい減退を結果したのであつた。これらの諸點については後述する。

第三に、資本主義諸國との對照上重要なのは通貨量の膨脹である。

この國はかつて戦時共產主義時代においては、貨幣經濟の否定を斷行したのであつたが、ネップ時代に入るとともに貨幣經濟の重要性を認識して、その運用を計るとともに、漸次幣制の改革と統一とに向つて努力し、一九二四年には四分の一準備法による金本位制を採用して、新たに國立銀行券及び政府紙幣を發行し、舊來の勞農札の通用禁止と回收とを斷行した。¹³⁾かくて五ヶ年計畫時代に入つた譯であるが、國立銀行への融資申込は意外に大きく、年額二億五千萬留程度の豫定膨脹額をもつてしては、到底需要に應ずべくもなかつたので第一年度には六億五千萬留、第二年度には約十六億留といふ増發を餘儀なくされたのであつた。¹⁴⁾勿論これがためには、發行制度を寛大にする必要があり、一九二八年八月一日には、政府紙幣の發行限度を國立銀行券發行高の七割五分に迄引上げ、追つて一九三〇年九月十八日には、十割に迄これを擴張

11) 茂森唯士氏著「ソヴェート・ロシア讀本」(昭和十一年十二月)二一七、——八頁

12) Die Rote Wirtschaft (Ein Sammelwerk) 1932; H. R. Knickerbocker, Der Aussenhandel, S. 252-3.

13) 前掲ソヴェート聯邦年鑑、三五六頁

14) 同上、三五八頁

したのである。いま第一次五ヶ年計畫時代における通貨膨脹の¹⁵⁾状態を見るに左表の如くである。

(4) 蘇聯通貨量表 (單位・百萬留、補助貨を含む)

年次	流通高	増加高	増加率
一九二八年一月一日	一、六七八	—	—
二九年	二、〇七・八	三〇〇・〇	三・五八
三〇年	二、七三・〇	七五三・二	二七・七九
三一年	四、〇三・〇	一、五九〇・〇	五九・一二
三一年六月一日	四、三四・九	五・九	一・三
三二年	五、七八・五	一、四三・六	三二・八九

即ち一九三二年六月一日においては、一九二八年一月一日に比し、絶対額では三倍半であり、増加率では二四七%を示す。言ふ迄もなく第一次五ヶ年計畫時代にあつては、生産財及び軍需財の生産が、消費財の犠牲において遂行せられたことに思ひ及ぶならば、右の通貨増量が、消費財の増量と何等均衡を保つものでないことを推測し得るであらう。その結果例へば、消費財の一つの代表と考へられる黒パン、馬鈴薯、牛肉、バター、卵の五商品について見るに、その物價指數は一九二八年を一〇〇として、一九三二年には平均一、三二〇を

示し、著しい物價騰貴を物語つてゐる。

要するに貨幣的側面より觀察する以上、第一次五ヶ年計畫における通貨量は、異常の増大を示して生産力の擴充に適合せんとしたのであつたが、消費財の生産がこれに伴はなかつたために、消費財部門の著しい物價騰貴を齎したのであつた。

扨て再び貿易の問題に復歸しよう。第一次五ヶ年計畫當時における逐年の貿易趨勢は次表の如くである。

(5) 蘇聯貿易表 (單位・千留)

年 度	輸 出	輸 入	總 額
一九二八・二九年	八七、六〇〇	八六、三〇〇	一、七三、九〇〇
一九二九・三〇	一、〇〇一、三〇〇	一、〇六八、七〇〇	二、〇七〇、〇〇〇
一九三一	八二一、一〇〇	一、一〇五、〇〇〇	一、九二六、一〇〇
一九三二	五三三、九〇〇	六八三、七〇〇	一、二一七、六〇〇
一九三三	四六〇、七〇〇	三二七、三〇〇	七八八、〇〇〇
一九三四	三四三、八〇〇	一八九、八〇〇	五四三、六〇〇
一九三五	三六七、四〇〇	二四二、四〇〇	六〇八、八〇〇

(一九三〇年度までは、蘇聯の經濟年度が毎年十月一日に始

15) 東洋經濟新報社編、「日本經濟年報」第三十五輯(昭和十一年八月)、一二六頁

16) 茂森氏、前掲書、二七七、——八頁

蘇聯第一次五ヶ年計畫と貿易

まり翌年の九月三十日に終つてゐたので、二年に跨つてゐるが、一九三一年からは曆年制となつた。尙ほ一九三〇年十月一日より年末までは特設會計期とせられ、本表では一九三〇年度に包含されてゐる。）

右の如く一九二八年より一九三二年に至る四ヶ年三ヶ月の輸入合計は三、六九三、七〇〇千留、輸出合計は三、二五五、〇〇〇千留で、都合入超四三八、七〇〇千留となつてゐる。即ち一九二八・二九年度において、僅かに四一、三〇〇千留の出超を見たほかは毎年逆調を呈し、一九三一年度の如きは二九三、八〇〇千留の入超となつてゐる。

いま試みに一九三一年度につき、その輸出入品の内容を檢するに、先づ輸入品は次の如き品目より成る。

左表において看過し得ざる重要事は、工業並びに鑛業の生産品が壓倒的な數字を示してゐることであつてこれを以てしても、如何に蘇聯が國內の工業化・機械化に専念したかを窺ふことが出来る。いま機械器具及び同部分品合計、金屬合計並びに金屬製品合計の三者

第四十四卷 六二二 第四號 一四〇

(6) 蘇聯一九三一年度輸入品別表 (一千万金留以上のもの、單位千金留)

品別	金額	品別	金額
機械及器械	二四〇、七五	鐵鋼製品	九〇、八七〇
機械部分品	九〇、四七	其他の金屬製品	一五、三七〇
農業機械	一七、九〇七	(金屬製品合計)	一〇六、二四〇
トラクタ	九、〇四七	棉花	四〇、五六八
同部分品及附屬品	一〇、五八〇	羊毛	三五、四六七
自動車	一三、三九	絲及織物類	八、五〇
自動車及自動自轉車部分品	二四、九三	ゴム及同原料	一三、八七六
光學・物理學及化學・器械	一四、九九	化學製品	一四、一三三
電氣機械器具及附屬品	五、四一	茶	二、六三二
其他の機械器具及同部分品	一〇、三九八	牛	二〇、六九七
(機械器具及同部分品合計)	五四、六七五	其他の家畜	一〇、一六三
鐵	二四、五六〇	皮革及同製品	二二、五九
銅	一〇、七三	農漁產品	二三、一〇四
アルミニウム	一五、六六	其他の商品	八九、三二
其他の金屬	二三、〇三五	輸入總額	一、一四、〇三四
(金屬合計)	一七、八六		

を合算すれば、總額八二四、七四一千留といふ數字を得るのであるが、これは輸入總額一、一〇五、〇三四千留の實に七五%に相當し、抜くべからざる輸入の根幹を成してゐる。同様の計算に基いて、我々は一九三〇年度には六一%、一九三二年度には七五%、一九三三年度には七一%の割合をそれぞれ見ることが出来る。即ち輸入の絶対額では毎年著しい相違が見られるにも拘らず、工業化資材の輸入總額に占むる割合は、略一定してゐるやうである。次に輸出品目を左表によつて見よう。

本表において重要なことは、蘇聯が原料乃至は食料品の輸出を根幹としてゐることであつて、輸出總額に對し、農産物では四二%、林産物では一四%、鑛産物では一九%をそれぞれ占めてをり、これら三者の總輸出額において占むる割合は、實に七五%にのぼつてゐる。同様の計算を施すことによつて、我々は一九三〇年度には七八%、一九三二年度には六九%、一九三三年度には五七%の割合をそれぞれ見ることが出来る。

(7) 蘇聯一九三一年度輸出品別表

(一千萬金留以上のもの、單位千金留)

品 別	金 額	品 別	金 額
小麦	七、二二三	其他の木材	四、〇八六
ライ麦	三、九八〇	(林産物合計)	二二、五九三
大麦	二六、八五五	石炭・骸炭	一四、一八二
燕麥	二、〇三六	石油	二五、六六三
亞麻	一三、一三三	其他の鑛産物	二二、九二〇
棉花	一八、〇〇五	(鑛産物合計)	一五、七五五
牛脂	四、三三三	織物類	五、〇三三
毛皮	五、一六九	砂糖	三、六八九
魚類	一〇、三三三	豆粕	一四、四八六
其他の農産物	七、〇八二	其他の商品	一〇、九四〇
(農産物合計)	三三、〇五五	輸出總額	八二、二二〇
挽材	七、五七		

即ち輸出の絶対額は一九二九・三〇年度を頂點として、資本主義諸國を襲つた世界恐慌の深化に伴ひ、累年激減傾向を取るに至つてゐるが、輸出品内容においても原料品輸出の總輸出額に占むる割合が、可成りの低下傾向を辿つてゐる。

このことは蘇聯の輸出品の大宗たるこれらの原料品の、資本主義諸國の購買力に依存する程度が、其他の輸出品に比して大であることを示すとともに、蘇聯の第一次五ヶ年計畫遂行にあつて偶々襲來した世界恐慌が、如何に蘇聯當局の頭を悩ましたかを推測せしめるものである。かの恐慌が世界的規模において物價の下落を招來したことは明白であるが、蘇聯の輸出品についても亦我々はこの事實を觀取することが出来る。例へばH・R・ニツカボツカ氏は¹⁹⁾「實際のところ、世界恐慌の眞只中であつて、輸出水準を恐慌前の高さに近く保つといふことは、正に大した仕事である。何故なれば物價崩落期においてかゝる水準が保たれるためには、數量的に著しく多くのものが輸出されねばならぬからである。かくて蘇聯は、一九三〇—三一年の平均輸出量が、一九二八年度の輸出數量の略四〇%方大であるといふ状態を惹起せねばならなかつた。換言すれば、もし世界物價が現實にあつた程度に崩落しなかつたならば、蘇聯の輸出は略完全に計畫通

りに遂行されたことであらう」と。²⁰⁾

それにも拘らず我々は蘇聯の當時の貿易について次の如き事實を知つてゐる。即ち左表によれば、世界恐慌の前夜たる一九二九年を一〇〇とする各主要國の輸出入貿易において、一九三二年度（即ち第一次五ヶ年計畫最終年度）は、蘇聯に關し甚だ興味多き數字を示してゐる。何れの國も一九二九年度の下位にあることは同じであるが、蘇聯は輸出入とも斷然群を抜いて高位を保つてゐる。恐慌時における輸入がかくも壓倒的高位を保ち得たことは、到底資本主義國では實現さるべくもない。これは素より五ヶ年計畫遂行上に齟齬を來さしめないためであるが、それと共に社會主義國家における行政化された貿易機構、即ち貿易の國家による獨占に歸せらるべきであらう。けれども買ふことはむしろ容易である。我々の注意はそれ以上に輸出に向けるれねばならぬ。こゝでも蘇聯の示す數字は驚くべきものである。なる程輸入に比すれば、その減退率は幾分大きいけれども、他國との比較において、この六二・

19) H. R. Knickerbocker, a. a. O. S. 253.

20) 同様の趣旨は、Sowjetwirtschaft und Aussenhandel, Nr. 4/5 15. Jahrgang 1936, のM. Schirmunski 稿、Plan und Aussenhandel S. 11-12. においても見られる。

21) League of Nations, Review of World Trade 1935, p. 26.

(8) 國別世界貿易變動指數表

國 別	(a) 1929=100						(b) 1932=100			
	輸 入			輸 出			輸 入		輸 出	
	1932	1934	1935	1932	1934	1935	1934	1935	1934	1935
英 本 國	42.1	37.8	37.8	36.0	33.5	34.9	89.8	89.7	93.0	96.9
米 國	30.5	22.5	27.9	30.6	24.3	25.8	73.7	91.3	79.5	84.5
獨 逸	34.7	32.6	31.0	42.6	30.5	31.8	94.1	89.4	71.6	74.6
佛 蘭 西	51.3	39.7	36.0	39.4	35.6	30.9	77.3	70.1	90.5	78.4
日 本	39.6	39.9	41.5	37.5	38.9	43.1	100.7	104.7	103.5	114.8
伊 太 利	37.2	34.4	—	43.6	33.3	—	92.4	—	76.4	—
蘇 聯	79.9	26.4	27.4	62.3	45.3	39.8	33.0	34.3	72.8	63.9
主要二十一ヶ國合計	39.5	33.0	33.0	38.0	32.6	33.0	83.7	83.6	85.8	86.8
世界總計	39.2	33.6	33.9	39.0	34.2	34.6	85.7	86.5	87.6	88.8

上記は米金非に換算せる各國商品貿易金額により算出せらる。尙ほ主要二十一ヶ國の一九三五年における對世界總貿易額比率は74.8%である。

(9) 蘇聯穀物收穫高及國家穀物調達高表

年 次	總收穫高 單位百萬トン	國 家 調 達 高		地方住民 に残され た額 單位百萬トン
		絶 對 額 單位百萬トン	對總收穫高 比 率 %	
1913	81.6	—	—	—
1928—29	73.3	10.8	14.7	62.5
1929—30	71.7	16.2	22.5	55.6
1930—31	83.5	22.2	26.5	61.4
1931—32	70.0	23.0	32.9	47.0
1932—33	70.8	18.1	25.6	52.7

課徴する部分が漸増し従つて地方住民に残された部分が漸減してゐることを知るのみならず、一九三〇・三一年度及び一九三二年度の輸出

この工作の裏面には如何なる操作が行はれてゐたのか。我々はその一々を舉げる代りに、ボリス・ブルツクス教授の掲ぐる二表²²⁾を探り來つて、「何が」行はれたかを端的に示すことゝしよう。これによつて我々は穀物總收穫高が毎年略一定してゐるにも拘らず、政府の

22) Brutzkus, Boris, Prof. Dr., Berlin, Russlands Getreideausfuhr. (Weltwirtschaftliches Archiv, 38. Bd. 1933 II) S. 497-498.

三%といふ數字が表現する輸出の強行性には眼を掩ふことが出來ぬ。

(10) 蘇聯穀物輸出及生産消費の關係表

年次	純生産高 (種子を除く) 單位百萬トン	住民數 單位百萬人	住民一人當り 純生産高 單位ドツベル ツエントネル	純輸出高 單位百萬トン	住民一人當り 純生産高 (輸出高を除く) 單位ドツベル ツエントネル
1913	68.4	139.7	4.9	10.1	4.2
1928—29	61.4	154.4	4.0	—	4.0
1929—30	59.3	157.7	3.8	2.2	3.6
1930—31	70.9	160.6	4.4	6.2	4.0
1931—32	56.6	163.0	3.5	4.5	3.2
1932—33	57.7	165.0	3.5	0.8	3.4

如く述べてゐる。²³⁾「たとひこれらの計數が、蘇聯の耕作面積及び收穫統計の不備のために、幾多の疑問を藏す

高が驚くべき數量的増大を示してゐることを知る。これは穀價の崩落を數量の増加によつて補つたことを證するものとして役立つであらう。この間の消息をブルツクス教授は次の

るとはいへ、それが大體において次のことを證する。即ち蘇聯の穀物輸出は、或る一定の經濟外的目的の遂行に當つて、國民大衆の必要を殆んど考慮せぬ獨裁政府の專横な行爲として、觀察されねばならぬといふことである。かゝる穀物輸出は疑もなく何等の健全なる根據をも持たぬものであり、そしてたゞ臨機應變に實行されるに過ぎない」と。

次に國別貿易を見よう。²⁴⁾ 左表に従へば輸出貿易における英・獨兩國と、輸入貿易における獨・米兩國は常に他の諸國を壓倒して高位を維持してゐる。

而して輸出においては、イギリスが逐年その重要性を加へつゝあるに反し、ドイツは下向傾向にある。又輸入においてはドイツは著しく比率の増大を見てゐるのに、アメリカは各年とも大差なく、一九三二年には突發的な下降をすら來してゐる。

終りに我々は資本主義諸國よりの輸入が、クレジットの設定による援助に俟つところが大きであつたことを指摘しなければならぬ。蘇聯は獨・伊・英を始めとする九ヶ國より、貿易クレジットに對する政府の保證を受

23) a. a. O. S. 498.

24) Knickerbocker, a. a. O. S. 257 及び前掲ソヴェート聯邦年鑑、三一六——八頁、茂森氏「日本と蘇聯」二〇六——七頁により作成

(11) 蘇聯主要國別貿易表 (單位、百萬留)

出 (蘇聯より)										
國 別	1928	%	1929	%	1930	%	1931	%	1932	%
總 輸 出	799.5	100.0	923.7	100.0	1036.4	100.0	811.0	100.0	574.9	100.0
イギリス	163.2	20.4	202.6	21.9	279.9	27.0	266.1	32.8	138.5	24.2
ドイツ	188.9	23.6	215.1	23.4	205.7	19.8	129.3	15.9	100.5	17.6
イタリア	26.2	3.3	32.9	3.6	53.1	5.2	39.7	4.9	27.0	4.7
ペルシア	77.0	9.6	69.6	7.5	60.3	5.8	32.5	4.0	25.4	4.3
オランダ	17.3	2.2	31.2	3.4	34.8	3.4	29.3	3.6	21.5	3.8
フランス	44.2	5.5	42.5	4.6	44.1	4.3	28.3	3.5	20.0	5.0
ラトヴィア	76.4	9.6	78.0	8.4	52.3	5.0	27.3	3.4	9.6	1.7
アメリカ	30.7	5.7	42.6	4.6	40.9	3.9	22.7	2.8	17.2	3.0
トルコ	15.1	1.9	17.3	1.9	16.2	1.6	12.5	1.5	5.5	1.0
蒙古	—	—	—	—	—	—	37.3	4.6	41.4	7.1
新疆	—	—	—	—	—	—	14.0	1.7	15.7	2.8
入 (蘇聯への)										
國 別	1928	%	1929	%	1930	%	1931	%	1932	%
總 輸 入	953.1	100.0	880.6	100.0	1053.8	100.0	1105.0	100.0	704.0	100.0
ドイツ	237.7	24.9	194.6	22.1	250.8	23.7	377.8	34.2	327.7	46.6
アメリカ	185.4	19.5	177.2	20.1	264.4	25.0	229.9	20.8	31.7	4.5
イギリス	41.3	4.4	54.7	6.2	80.1	7.6	73.4	6.6	91.9	13.1
チェッコ	20.5	2.1	18.4	2.1	27.1	2.6	35.7	3.2	10.3	1.4
ポーランド	9.3	1.0	19.3	2.2	33.8	3.7	31.2	2.8	5.6	0.8
イタリア	10.1	1.1	7.6	0.9	10.8	1.0	29.8	2.7	27.1	3.8
フランス	35.5	3.7	31.7	3.6	29.7	2.8	15.0	1.4	4.3	0.5
ペルシア	—	—	—	—	—	—	46.5	4.3	49.9	7.1
蒙古	—	—	—	—	—	—	28.8	2.6	19.3	2.7
新疆	—	—	—	—	—	—	10.2	0.9	12.3	1.7

けたのであるが、このクレヂツトの額は、實に蘇聯が長い間獲得せんと努力した借款に代るものとして、その役割を果す程に相當額に達したのであつた。

即ちバアミンガム・ロシア經濟事情研究所の發表によれば一九三一年十月一日現在の短期クレヂツト總額は、略八五五百萬留(約一七〇〇百萬マルク)にのぼつてゐるが、一九三〇年十月には未だ六二五百萬留(約一三五〇百萬マルク)であつたのであり、その増大速度も急速なものであつた。しかもこれらのクレヂツトの設定條件は決して惡くはなく、大體において、五分の一は即金、五分の二は一ヶ年後、五分の一は二ヶ年後、終りの五分の一は三ヶ年後に償還するといふことになつてゐる。これらの條件は、一般に私企業家によつて得られるものよりは遙かに良好なのである。²⁵⁾たとひそれは數年間の累積合計であるにしても、この八五五百萬留といふ額が如何に大なるものであるかは、それが一九二九年度の輸入總額に匹敵し、一九三〇年度及び一九三一年度のそれのそれぞれ八〇%及び七七%に相當するに徴しても明かであらう。

これを要するに第一次五ヶ年計畫は未曾有の規模を以て、その達成を見るに至つたのであるが、かゝる巨額の支出に應ずるだけの十分なる經濟的基盤を符合さなかつた蘇聯としては、必然的に内は國民大衆の終局

的負擔を餘儀なからしめ、外は資本主義諸國よりの大なる援助に俟たざるを得なかつた。而してこの内外に互る計畫的諸工作は、一にその獨裁的なる行政組織を通じての自主的強制力によつて猪突的精力的に遂行されたのである。蘇聯の外國貿易は、從つて國策遂行のための直接的な重要手段として、極端に行政化せられ國內需要は端的に輸入額を決定するとともに、これと均衡を得せしめんがための輸出も亦多分に計畫的、強行的であつた。併しながら、第一次五ヶ年計畫の決定年度たる一九三一年度及び翌一九三二年度の如きは、依然たる輸入の巨額の繼續にも拘らず、世界恐慌の勃發のために輸出は振はず、遂にその對輸入總額比率がそれぞれ七三%及び八二%に沈下し、著しい逆調を呈するに至つたのである。

——(一九三七・一・一五)